

2026年3月期 第2四半期 決算説明会 質疑応答概要
(2025年11月6日開催)

Q1. 今期も下期偏重の業績予想ですが、3Qと4Qどちらに偏りがありますか？ また各事業の足元の状況についても教えてください。

A.(回答者:鳥屋)

昨年度の利益ベースでみますと、3Qが通期の20%弱で4Qが50%弱といった推移で、かなり4Qに偏重しておりました。今期のソリューションサービス事業と受託開発事業の受注残の状況から、見通しとしてはほぼ同じ推移になるのではないかと予想しております。足元の状況としましては、予想の修正等はないものの順調に来ており、中でもソリューションサービス事業は昨年度からストックサービスが徐々に増え、それがキープできている状況となっております。

Q2. 今回ソリューションサービス事業は売上より利益の伸びが大きいですが、何が一番利益を押し上げているのでしょうか。

A.(回答者:鳥屋)

主には利用料サービスが増えたのが要因となります。他にも利益率の高いサービスの受注を昨年度獲得できており、今回売上と利益がきっちり伸びている状況でございます。なお今後の製品については、利用料サービスをさらに伸ばすため、フロントサービス(ユーザーが直接目にし、触れて操作するウェブサイトやアプリケーションの画面部分)に対する製品開発・製品導入パワーの拡大に積極的に投資をしていく予定です。上期は予定よりも若干投資が少なくなった分、利益が出ているようにみえる結果にもなっております。

Q3. 2Q終了時点で計画を超えています、通期計画の修正を行う予定はありますか。

A.(回答者:柿崎)

今期は業績の4Q偏重という予想もあり、2Q終了時点では期初の計画通り進めていく方針です。今後の状況によって、必要なタイミングで情報開示をさせていただく予定です。

Q4. 先日からLINEヤフー社のグループ会社、アスクル社でシステム障害が発生しているが当社への影響はありますか。

A.(回答者:柿崎)

アスクル社で発生したシステム障害については承知しております。アスクル社と取引はございますが、取引規模については当社の全体売上・利益からみても限定的となっており、現時点で当社への重大な影響はないという認識です。当社のセキュリティ対策に対しては、常日ごろから様々な角度において対策を講じておりますが、市場では名だたる企業様が被害に合われている状況を鑑み、さらなるセキュリティ体制の点検と強化に努めてまいります。

Q5. 当社の株主還元策は累進配当の認識であっていますか。

A.(回答者:鳥屋)

当社の配当方針としましては従前からの「配当性向40%超」にて株主還元を実施しております。よって、たまたま前期まで8期連続増配となっており、次も1円増配の9期連続といった流れになっている、という認識です。とはいえ、中期経営計画に基づき、ストックサービスを増やす施策が3年ほど前から始まり、業績連動の配当方針で数字もついてきているため、方針を変えずとも自然に増配が続けられるのでは

ないか、と考えております。引き続き、当社の持続的成長にご期待いただければと思います。

Q6. 今期は事業ごとに明暗が分かれています。来期はそれぞれの事業についてどのような方向感で見えていますか？ 事業環境なども含めて教えてください。

A. (回答者: 柿崎)

事業環境については昨今、AI活用が世の中で加速していく中で、人に依存した形のビジネスの課題は大きくなる認識で、特にサポート系の業務においては将来的にAIに代替される範囲が広がっていくと考えております。そういった中で事業セグメントをみたときに、ソリューションサービス事業が全体をけん引していく流れは変わらない認識です。我々の考える新成長基盤(決算説明会資料P25の図)では企業で発生したデータ(左側)をERP(経営資源管理システム)などでとりまとめ(真ん中)、ダッシュボードなどで可視化する(右側)ことで、データがお客様の収益や企業価値を高めることに貢献できるサービスや製品をご提供し、これらをストックビジネスへ繋げていく、同時にサポート系の人財をリスキリングなどでAIやクラウド等の技術力を持った専門性の高い人財に育成し、ソリューションサービス事業と融合させていくことが重要となります。このような方向感を持っている、とご認識いただければ幸いです。

以上